



沙門はくいの CL 閑話 53

香巖上樹

—絶体絶命/Nothing Special—

遠藤博因 hakuin@river.ocn.ne.jp

今回も禅の逸話の中から一つお話させていただきます。

「口だけで高い木の枝にぶら下がっている人がいる。そこに別の人がやって来て、禅の真髓を問う。もし答えずにそのまま木の枝にぶら下がっていると、問うた者の要求に応じないことになる。もし答えるなら、木の枝から落ちて命を落とすことになる。さあ、この時、彼は一体どの様に答えたらよいのか」と香巖(きょうげん)和尚は問いを發した。

今回のお話は、口で木の枝にぶら下がっていてそこでどうするか、といった質問です。アクション映画でもなければ現実にこのような状況は考えにくいのですが、これはあくまでも例え話です。私たちの人生の中でも、本当に切羽詰まったときや、にっちもさっちもいかない困難な状況を経験することがあるかもしれません。またそのような修羅場をくぐり抜けてきた人もいるかもしれません。そういったとき一体どうすればよいのかというのが、今回の禅の問いです。

アメリカの禅の修行者の間で良く聞く言葉に、『Nothing Special』というものがあります。アメリカン禅の本のタイトルにも使われています。一般の英会話では、ごきげんでいかがですか？と聞かれこのように答えると、ややこしい、ちょっと後ろ向きの受け答えになります。しかし、禅の文脈では、禅の重要な要素を端的に表している言葉です。直訳的には特別なことは何もないということになります。何事も特別扱いせず事実そのものを受け入れよというのが禅のスタンスです。富士山が世界文化遺産に登録されましたが、それ以前もそれ以後も山であることは変わりませんし、実際に登ってみても山であることには変わりありません。周りが騒ぎたてても富士山は富士山で“Nothing Special”なのです。


レイノルズ先生のアドバイスを紹介します。科学的、宗教的、特に心理学的見地からの話を信用しないでください。大切なのは、現実があなたに、病、死、喪失、喜び、挑戦、その他のいろいろな経験をもたらしてくれるのです。あなたの考えや理論でもって災害を防止することはできないのです。あなたの考えや理論を冷静に知り、今この瞬間の豊かな香りを味わってください。『Gateless Reflections by D.K.R 5』

絶体絶命なとき、皆さんは冷静な行動がとれますか？

以前の閑話でも紹介しましたが、良寛和尚さんの手紙に「災難に逢う時節には、災難に逢うがよく候。死ぬる時節には、死ぬるがよく候。これは災難を逃るる妙法にて候」というのがあったそうです。現実を素直に受け止めた結果、大難が中難に、中難が小難に、小難が無難にということでしょうか。

今回も誌面にて皆さんとお会いできるご縁に感謝して

合掌
(富山県南砺市 CL インストラクター)

 [目次へ戻る](#)